

# 定例研究会の企画・開催について

## 研究企画委員会

創立30周年記念学会大会も無事に終わり、次の企画として今年度の方針の1つである委員会活動の充実にむけて、「定例研究会」をスタートさせたいと思います。

研究会の基本テーマは、大会シンポジウムでとりあげた「あそび」に設定したいと思います。大会シンポジウムでは、歴史・原論、政策（社会学）、資源空間（造園学）の3分野から報告が行われ、新時代における「あそび」の重要性と幅広さ、様々な分野からの研究アプローチの必要性が提示されたと考えます。しかし、時間的な制約もあり、十分な議論が尽くせなかったのも事実です。

そこで、「あそび」を基本テーマに据えながら、各分野から適宜具体的なテーマを設定して研究会を開催し、議論を深めていきたいと考えます。また、学会活動の社会還元、会員へのサービス等を考慮し、学生も含めたなるべく多くの方々が参加出来る、楽しいものになりたいと思います。具体的には、次のような方針を設定しました。

- 研究者向けのテーマだけではなく社会的に関心のある、あるいはこれから関心が高まるであろうと思われる内容を取り上げる（生活関連、環境、地域、自然保護、教育、福祉、市民参加、など）。
- 当初から内容を固めるのではなく、先ずいくつかの研究会を実施し、その結果をみながら、新しいテーマ展開、活動の広がりに対応できるよう、柔軟に運営する。
- 年間4回程度のペースで実施し、長く継続できる企画とする。
- 毎回、各分野の会員にコーディネーターをお願いし、具体的な運営はコーディネーターに任せる。
- 学会誌等への報告を基本とする（コーディネーターが担当）。
- 大会シンポジウム等との関連も考慮する。
- 室内での研究会だけでなく、積極的に現場に出かける現地検討会（フィールドセッション）なども取り入れる。また現場で活躍されている方を講師としてお願いすることも考える。
- フィールドを対象とした研究会の場合、特定の分野、テーマに片寄ることなく、各分野からのアプローチや新しいテーマ設定への展開が可能となるよう配慮する。
- 平成13年度の最初の企画として、「多摩丘陵における市民によるあそび空間（遊歩道ネットワーク）づくり」を取り上げる。
- 広報や市民グループとの関係等を考慮しながら、5～6月頃、第1回目の現地研究会を開催し、1ヶ月ほどの内に室内での第2回目の研究会を開催し、様々な分野からの検討を行う。
- 10～11月頃、第3～4回目の研究会を企画する（できれば現地と室内をセットで実施する）。